

台湾派遣に学ぶ本県の商業教育の発展

千葉県立一宮商業高等学校 教諭 小城 翔平

1 はじめに

令和4年12月13日（火）から12月16日（金）まで台湾の桃園市、台北市を訪れた。国際教育交流事業に参加し、台湾の高校生との交流や台湾の交通・経済、歴史・文化、観光などについて学んだ。4日間の日程を時系列に追うのではなく、小項目にあるテーマごとに本事業で学んだことや教育的効果を報告する。商業科の科目「観光ビジネス」や「マーケティング」「グローバル経済」「電子商取引」など様々な授業で本事業の経験が役立てられる。本報告が千葉県の商業教育の発展に貢献できれば幸いである。

2 台湾の高校生との交流

台湾訪問前の事前学習では、生徒が台湾での観光プランを考えて本事業の関係者に発表した。生徒は、起点となるホテルを中心に交通手段や観光できる時間、費用などの制約条件を考慮しつつ、充実した観光ができるように調査した。観光プランを考えることで歴史や文化、言語などを学ぶ意義や重要性を学んだ。

台湾派遣3日目に桃園市の中壢商業高級中等學校を訪問し、教員2名が千葉県の概要を、また生徒が千葉県の観光プランをそれぞれ発表した。中国語での挨拶は、発音が難しく練習に時間を要した。翻訳アプリや、学校名や氏名などの固有名詞の発音を添乗員に指導してもらい練習した。観光プランの発表をとおして、様々なことを学んだ。1つ目は、私たち自身が千葉県の歴史、文化、観光などに理解が不足していることである。台湾の人々が千葉県を訪問する際は、今回の観光プランをもとにしっかりとガイドできるよう科目「観光ビジネス」などで学ぶことが重要だと感じた。2つ目は、外国人にプレゼンする場合は、スライド資料の作成や発表方法がより難しくなることである。日本語で作成した資料を中国語に翻訳しても、正しく翻訳できているか確認する必要がある。また、画像で視覚的に表現することがより重要だ。日本語で説明した内容を通訳してもらうため、発表できる時間は持ち時間の約半分になる。英語を学ぶ重要性を再認識するとともに、英語が通じない国を訪れる際はどう行動するべきか考えるきっかけになった。

プレゼン後の体験授業では、検索ワードをもとにAIが画像を生成するサービスについての授業を受けた。被写体や著名な画家、アングル、作風などを英語で入力すると、それらの検索ワードをもとにした画像が4枚生成される。AIの可能性や限界を学ぶための教材として有用である。次に電子商取引のサイト（以下、ECサイト）を作成する授業を受けた。インターネットで提供されているECサイト制作サービスを利用しているので、日本の商業高校でも科目「電子商取引」でもこの授業を再現することができる。サーバを運用し、HTMLやCSSなどを使ってECサイトを作成するのは難しいが、既存のサービスを利用することでデザインやWebページの構成などを体験的に学習できる。台湾で体験した授業を日本の商業高校の授業にも活かしていきたい。

台湾の高校の施設は、日本の大学の施設に似ている。敷地面積や建物の規模、ICT機器や

学習スペースの整備状況などを見ると、教育にしっかりと予算をつけていることがわかる。ICT機器を活用した授業を展開する環境整備が整っており、こうした環境で学ぶことで経済社会を支える人材が育成される。制度や教育に関する文化など、日本が台湾の教育から学ぶことは多い。



千葉県生徒の台湾でのプレゼン



台湾高校生との交流・体験授業

3 台湾の交通・経済

市街地をバスで移動中に目にする光景から交通や経済に関することが学べた。台湾の2021年時点の電源構成は、火力発電が8割、原子力が1割、それ以外の電源が1割である。電力需給は安定していて信号機がしっかりと稼働しているので、滞在中にひどい交通渋滞に遭うことはなかった。台湾は東南アジアの発展途上国のようにスクーターの台数が非常に多い。また、スクーターや車の駐車スペースが道路脇にあるため、1車線の対面道路でも車がすれちがうには狭い。安定した電力供給や物流網の発達は、経済発展に欠かせない。日本は道路に駐車スペースがあることが少ないので、台湾よりも渋滞や物流が滞るといったことが起きにくく、交通・経済での両国の違いが理解できる。

台湾訪問1日目は、ホテルの近くにあるスーパーで買い物をした。当時の為替レートでは、台湾ドルを5倍すると日本の円とほぼ同じになる。物価の優等生と呼ばれる卵が1パック67元（約335円）、バナナ一房45元（約225円）など、日本のものと比べると物価が高い。また、日本の商品は台湾では輸入品なので物流コストや中間マージンが上乗せされているため価格が高い。固形カレーが99元（約495円）、のど飴が59元（約295円）で売られており、気軽には買えない値段だった。日本と台湾の物価を比較することで、日本経済がデフレーション状態であることを実感した。台湾では、多く買うごとに安くなることがよくあり、「第2件70折」だと「2品目は30%OFF」、「一買一送」だと「1つ買うと2つ目は無料」という意味だ。消費者の購買意欲を刺激するサービスであり、「規模の経済性」や「買い手・売り手の価格交渉力」について学べる教材になる。また、見ると日本にある店舗もよく目にした。ファミリーマートやセブンイレブン、吉野家、コメダ珈琲店、牛角、一風堂などが出店しており、日本の企業が国際的に展開していることがわかる。商業教育は、国際社会で活躍する人材を育てることが求められている。台湾派遣で学んだ経済に関する事柄を「グローバル経済」や「マーケティング」などの科目の指導に活かしていきたい。



台湾の交通状況



台湾での買い物

4 台湾の観光・歴史・文化

2日目は、台湾発祥の地とされる「龍山寺」、世界三大博物館の1つに数えられる「故宮博物院」、水族館・遊園地などを経営する日系企業、株式会社横浜八景島が運営に協力する「Xpark」を訪れた。

龍山寺は、清時代に建てられた台北最古の寺院で、故宮博物館や中正記念堂などと並ぶ台北の一大観光名所だ。本尊には観音菩薩を祀っており、第二次世界大戦中には、米軍の空襲により本殿が全焼したにもかかわらず、観音菩薩像は無傷だったため、人々は空襲の度に龍山寺に集まったと言われている。台湾は仏教を信奉している人が多く、熱心にお参りしている人の姿が印象的であり、現地の人々の生活に根づいた信仰心を肌で感じる事ができた。

故宮博物院は、宋・元・明・清四朝の宮廷の所蔵品などを中心に数々の芸術品が展示されている。翡翠を白菜の形に掘った宝石「翠玉白菜」は、白菜と共に繁栄を表すコオロギとキリギリスが非常に高度な技術で掘られている。細部に至るまで緻密な細工が施されており、どれほどの時間と労力をかけて制作したのか想像を絶する。他にも象牙を球体に掘った「象牙透彫雲龍文套球」は、親子三代に渡って掘り上げた芸術品である。芸術品を作る技術が認められると朝廷お抱えの職人として仕えることができるため、技術を競った。芸術品を作る職人が腕を磨くためには、比較的安定した治安や経済状況などの環境が必要と考えられる。また、第一次・第二次世界大戦をはじめ、幾多の戦乱の中、芸術品を守るために奔走した中国や台湾の人々の苦勞も伺える。芸術品が現代に受け継がれてきた歴史的な背景を学ぶと、歴史や芸術・文化を学ぶ意義を強く感じる。

Xparkは、単なる水族館ではなく、海洋生物に親しむ「エンターテインメント」と、環境保全の重要性を学ぶ「エデュケーション」を掛け合わせた「エデュテインメント」をテーマにした水族館だ。入場してすぐ目についたのは、ペットボトルやプラスチックごみが入れられた水槽だ。普通的水族館では決して見る事のない光景なので強く印象に残り、海洋汚染の深刻さを訴えたいものだとして理解した。また、著名な画家が海をテーマに制作した絵画をもとにAIが2050年の地球をテーマに描いた作品が展示されていた。日本の浮世絵画家、葛飾北斎が富嶽三十六景の1つとして描いた「神奈川沖浪裏」をもとにした作品には、ペットボトルやプラスチックごみなどが波にもまれる様子が描かれていた。台湾は、プラスチックの海洋汚染対策にいち早く取り組み始めている。子どもたちが多く訪れる水族館で海洋汚染の深刻さ、環境保全の大切さを訴える取り組みは効果的だ。また、Xparkで働く日

本人獣医師の方の講演では、外国で働くやりがいや苦勞などを聞くことができた。国を超えて、社会に貢献しようとする気概を感じ、生徒にも国際社会で活躍する人材になろうと努力することの重要性を伝えたい。

4日目に訪れた「中正記念堂」は、台湾を統治し、1975年に亡くなった蒋介石総統を記念した建物である。蒋介石は、台湾の民主化に大きく貢献した人物であり、彼の演説の写真から、民主化を求める民衆とそれに応えようとする彼の気持ちが感じられた。メモリアルホールに鎮座する蒋介石の巨大な銅像の脇に、凜とした様子で佇む2人の衛兵がおり、1時間ごとの交代式は、非常に厳格な空気の中で行われ緊張感が漂っていた。中正記念堂では、台湾民主化の歴史や衛兵の様子を見て、歴史を学ぶ重要性や民主主義の大切さ、徴兵制度のない日本がいかに安全で平和な国なのか、といったことを感じさせる。日本は成人年齢が18歳に引き下げられたことで高校生でも選挙権を持つ人がいる。台湾訪問について生徒に話すことが歴史を学び、民主主義の尊さを理解する一助になる。



Xparkでの講演



中正記念堂の蒋介石の銅像

5 おわりに

本事業をとおして、商業教育に活かせる様々なことを学んだ。台湾の高校生との交流は生徒にとって貴重な経験であるとともに両国の親交が深まるきっかけになる。台湾の方々が千葉県を訪問する際は、商業高校で学んだことを活かしてしっかりと千葉県の魅力を伝えることができるようさらに教育指導や学習に熱が入る。今回経験したことや学んだことを校内外に積極的に発信し、千葉県の商業教育の発展に貢献したい。また、本事業には、大きな教育的意義がある。千葉県と桃園市の発展や国際社会で活躍する人材を育成するためにも国際教育交流事業をより発展的、継続的に実施されることを期待したい。

本報告が千葉県の商業教育のさらなる発展に寄与できれば幸いである。